

2021年2月5日(金)
公益財団法人 日本英語検定協会

2021年度「英検」、「英検 S-CBT」、「英検 S-Interview」の検定料のお知らせ

—および英検 CBT／英検 S-CBT のサービス統合について—

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区横寺町 55、以下、「英検協会」）は、このたび実用英語技能検定の各種試験（「英検」（従来型の英検を示す）、「英検 S-CBT」、ならびに「英検 S-Interview」）の 2021 年度の検定料を決定しました。以下にお知らせ申し上げます。

また、これまでサービス提供してまいりました、「英検 CBT」と「英検 S-CBT」は、2021 年度 4 月実施分より「英検 S-CBT」にサービスを統合し、今後、英検の CBT 方式での試験は「英検 S-CBT」に一本化します。それに伴い、「英検 S-CBT」のライティングの試験方法を来年度から変更いたします。こちらも併せて本紙にてお知らせさせていただきます。

まず、来年度 2021 年度の「英検」（準会場・本会場）、「英検 S-CBT」、「英検 S-Interview」の検定料は以下のとおりです。

【2021 年度「英検（従来型英検）」・「英検 S-CBT」・「英検 S-Interview」の検定料一覧】

単位：円（税込）

| 申込区分 | | 実施会場 | | 1級 | 準1級 | 2級 | 準2級 | 3級 | 4級 *2 | 5級 *2 | |
|-----------------|-------|-----------------|------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 一次試験 | 二次試験 | | | | | | | | |
| 従来型英検 | 団体のみ | 準会場（新方式） | 準会場 | 準会場*1 | — | — | 6,100 | 5,400 | 4,400 | 2,900 | 2,500 |
| | | 本会場（現行方式） | 準会場 | 本会場 | — | — | 6,500 | 5,800 | 4,800 | 2,900 | 2,500 |
| | | 準会場（新方式） | 本会場 | 準会場*1 | — | — | 9,300 | 8,800 | 7,500 | 4,900 | 4,500 |
| | 個人/団体 | 本会場 | 本会場 | 本会場 | 12,600 | 10,700 | 9,700 | 9,200 | 7,900 | 4,900 | 4,500 |
| 「英検S-CBT」 *3 | | テストセンター | | — | 10,200 | 9,200 | 8,700 | 7,400 | — | — | |
| 「英検S-Interview」 | | 受験上の配慮措置に適した本会場 | | 12,100 | 10,200 | 9,200 | 8,700 | 7,400 | — | — | |

*1 二次準会場申込にあたり志願者数の下限を設定 *2 4-5 級は一次試験のみ *3 「英検 CBT」は「英検 S-CBT」にサービス統合

※TEAP、TEAP CBT、IELTS の各試験の検定料は 2020 年度どおりで変更ございません。

本来、各試験の検定料の改定につきましては、決定次第速やかに、少なくとも昨年内に皆様にご報告させていただくところでございますが、ご承知の通り、新型コロナウイルスの影響が今後どれほど及ぶか、先行きがいまだ見えず、来年度の予測が立ちにくい状況にございます。

一方、英検協会が実施する各種試験は、今や生涯学習における検定試験の位置づけだけでなく、大学や高校等の入試にも活用され、特に入試を控える受験生にとりましては、英検他、外部の資格検定試験を受験しなくてはならない状況にありますことも事実です。

来年度も一定期間、新型コロナウイルスの収束が見られず、その影響により、本会場の試験会場として利用させていただく施設を必要数お借りするのが難しく、それにより、会場不足のエリアが発生し試験がおこなえない状況も十分に想定されます。こうした状況を回避し、できる限り英検受験を希望される皆様に受験いただけるよう、英検協会としましては、その打開策の検討も併せておこなってまいりました。

どうか関係各位におかれましては、このような状況ゆえ、本日までご報告が遅くなりましたことをご理解いただきますよう、謹んでお願い申し上げます。

なお前述の打開策といたしましては、まずは、来年度は本会場（指定の公開会場で受験）と準会場（申込団体で受験）の位置づけを変え、より多くの受験者が準会場にてご受験いただけるような取り組みを積極的に推進してまいります。

さらに、今年度からサービス提供しております、「英検 S-CBT」は、原則、毎週末、エリアによっては平日も実施しており、現在、累計受験者数 18 万人（2021 年 1 月現在）を突破し、安定稼働しておりますことから、これまで英検を受験されてこられた皆様に「英検 S-CBT」での受験も推奨させていただきます。その理由の一つとして、CBT 方式は、その試験の特質上、試験会場は比較的コンパクトで、さらに座席の両サイドはパーティションで仕切られ、前面のパソコンに向かって試験をおこないますので、換気された試験環境であることに加えて、さらなる“密”の回避の観点からも試験に適した会場といえることもございます。

以下の【**コロナ禍による 2021 年度の主な施策**】に詳細を記載させていただきますので、そちらをご高覧いただきますようお願い申し上げます。

【**コロナ禍による 2021 年度の主な施策内容**】

● 英検（従来型を示す）

- ・ 来年度も一定期間、コロナ禍の影響が及ぶことを想定し、英検（従来型英検）の主たる試験会場を、従来の本会場から準会場へとシフトする。
- ・ 具体的には、全国津々浦々に所在する、約 2 万の準会場^{※1}にご登録くださっている団体様にご理解いただき、所属の生徒様だけでなく一般の受験者様も当該施設で受験いただけるよう、団体様に受け入れ要請をおこない、準会場での一般申込の受験者様の収容数確保に努める。
- ・ それにより、一人でも多くの一般申込の受験者様にご自宅近辺の準会場登録いただいている団体様の会場にて準会場料金で受験いただけるようにする。
- ・ 一方、これまで全国の県庁所在地を中心に設置してきた、約 400 の本会場^{※1}についてはコロナ禍ゆえ、準会場で対応できない場合の副次的な位置づけと捉える。
- ・ それに伴い、英検の成績は入試にも活用されることを十分に考慮し、準会場実施が適正におこなわれるよう、引き続き準会場の登録管理、ならびに試験会場のさらなる監査強化に努める。
- ・ なお本施策は、コロナ禍の状況下の現在 2020 年度から既に試行的に実施しており、英検協会からお声掛けしました準会場団体様より概ねご賛同の御声を多く頂戴しており、これまで本会場の同等数、約 400 の準会場登録された団体様が既に一般申込された受験者様を受け入れてくださっている状況である。英検協会より、再度さらなる呼びかけを行い、一人でも多くの一般申込の皆様、最寄りの準会場登録団体にて、準会場料金で受験いただけるように尽力する。

※1: 末尾【別紙】に全国の準会場・本会場の分布を地図上に示しております。そちらも併せてご高覧いただければと存じます。

● 英検 S-CBT

現在、平日の受験希望者様に、よりご利用いただきやすいキャンペーンを実施しております。今後とも受験者様にとりまして、よりお得なキャンペーンを企画し実施させていただく所存です。英検協会としましては、多くの皆様に「英検 S-CBT」を受験いただくよう推奨してまいります。

また冒頭のとおり、来年度から、「英検 CBT」と「英検 S-CBT」はサービスを統合し、英検の CBT 方式での試験は、「英検 S-CBT」に一本化いたします。それに伴い、「英検 S-CBT」ではライティングの試験方法を、紙の解答用紙に解答を記入する「筆記型」、またはコンピュータ上に解答を入力する「タイピング型」のいずれかを申込時に選択できるように変更いたします。そちらにつきましては、次頁の【**2021 年度「英検 S-CBT」主な変更内容**】にご案内させていただきます。

なお変更内容の詳細につきましては、ウェブサイト近日中にアップいたしますので、そちらをご高覧いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

【2021 年度「英検 S-CBT」主な変更内容】

- ・ 「英検 CBT」と「英検 S-CBT」のサービスを統合し、今後、英検の CBT 方式は、「英検 S-CBT」のみとする。
- ・ それに伴い、今後の「英検 S-CBT」のライティング試験の方式を二者択一制とする。
- ・ これまでの「英検 S-CBT」はパソコン画面に出る設問の解答を紙の解答用紙に手書きで解答する方式であった。2021 年度からは、これまで同様に解答用紙に手書きで解答する方式と、これまでの「英検 CBT」と同様にキーボードで解答をタイピングする方式のどちらか、受験者様のお好きな方法（受験申込の際に解答方式を選択）でご解答いただくようにする。
- ・ その理由は、英検はこれまで、幅広い年齢層の皆様を受験いただいていることから、あらゆる層の皆様に来る限り平等に受験いただくことを基本方針とし、その方針のもと、特にライティング試験については、級によっては長い英文を書く（タイピングする）必要があり、4 技能のなかでは一番 IT リテラシーが得点に影響し得ると考える。しかも英検は年 3 回の実施に対し、「英検 S-CBT」は原則、毎週実施、エリアによっては平日も実施していることもあり、「英検 S-CBT」の受験希望者のなかには、IT リテラシーがそれほど高くない方々も受験を希望されることも想定でき、来年度は、英検の CBT 方式の試験は「英検 S-CBT」に一本化することから、紙の解答用紙に手書きで解答をする方式と、キーボードで直接解答をタイピングする方式の、二つの方式から受験者様にご選択いただけるように変更する。

では、冒頭の検定料となりました背景を以下にお知らせいたします。こちら併せてご高覧いただきますようお願い申し上げます。

【検定料決定に至る背景】

英検協会では、今年度、英検協会が実施する各種検定試験におきまして、様々な新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じさせていただき試験を実施しております。

具体的に申し上げますと、厚生労働省や文部科学省、それに全国検定振興機構の業界ガイドライン等に基づき、英検協会独自に新型コロナウイルスの感染拡大防止に関するガイドラインを取り纏め、そのガイドラインのもと、まずは試験会場での感染源を断つ目的として、感染している恐れのある受験者が試験会場に入場することがないよう、会場入口でのヘルスチェックの徹底、マスクの着用義務化、手指消毒の徹底等をおこなっております。また感染経路を断つ目的として、試験会場内の密を避けるため、会場あたりの受験者数の制限やコロナ対応担当係員の増員、また換気の徹底や試験会場使用後の清掃・除菌といった対応を講じさせていただいております。

一方で、これまで英検の本会場での試験実施は、主に小、中、高、大学といった各学校様の施設をお借りし試験会場として実施しております。今年度は、こうした学校様からお借りした施設が、試験日直前でありましても、コロナ禍の影響で使用できなくなり、その会場での試験を急遽中止せざるを得ない状況が大変多くございます。また、そもそも各学校様に施設の借用をお願いした時点で、コロナ禍の影響によりご貸与いただけないという場合も大変多く、そのため、通常の場合は借用費が高額で緊急時以外にはほとんど使用しない施設も今年度は大変多く借用させていただかざるを得ない状況にございます。

来年度、コロナ禍の影響がどうなるかを予測するうえで、有識者の先生方のご見解を報道等から知り得る限り、大方の予想といたしまして、来年度も一定期間、コロナ禍の影響が全国規模で及ぶものとのことでした。そこで英検協会としましては、受験者様の安全を考慮し、来年度も引き続き、上述の感染拡大防止策を今までどおりか、状況によりましてはそれ以上、講じさせていただく必要があると認識しております。また会場借用におきましては、来年度も一定期間、コロナ禍の影響が及ぶものいたしますと、今年度と同様、学校様の施設の借用だけでは受験者の受け入れに足りる必要数の設置は厳しく、引き続き高額な施設をお借りしなくてはならない状況にもなり得るものと判断いたします。仮に学校様の施設をお貸しいただけましても、コロナ禍の影響により、来年度も急遽、その会場の試験を中止せざるを得ない状況も十分に考えておく必要があると認識しております。

以上におきまして、英検協会は公益法人として収支相償^{※2}の原則に基づき、来年度もコロナ禍による影響を精査し、試験実施にかかるコストを算出し、冒頭の検定料とさせていただきます。また実施運用上の課題といたしましては、先述のとおり、本会場の試験会場の確保が課題となり、その実現のためにはコストの高騰が著しく、したがって、自前の会場を有する、準会場登録いただいております、全国約2万の団体様にご協力を仰ぎ、一般申込の受験者様もその自前の会場にご収容いただき受験させていただく対策を実施させていただくことを決定いたしました。並びに、今後、英検の次世代の試験の位置づけとして、全国の受験者の皆様に「英検 S-CBT」を広くご案内させていただき、こちらの試験も全国に専用会場を有しますので、ご利用いただきやすいキャンペーン等の対策を講じさせていただくことを決めた次第でございます。

※2：公益法人が利益を内部に溜めずに、公益目的事業に充てるべき財源を最大限活用して、無償・格安でサービスを提供し、受益者を広げようとするものです。（内閣府公益認定等委員会事務局「収支相償について」参照）

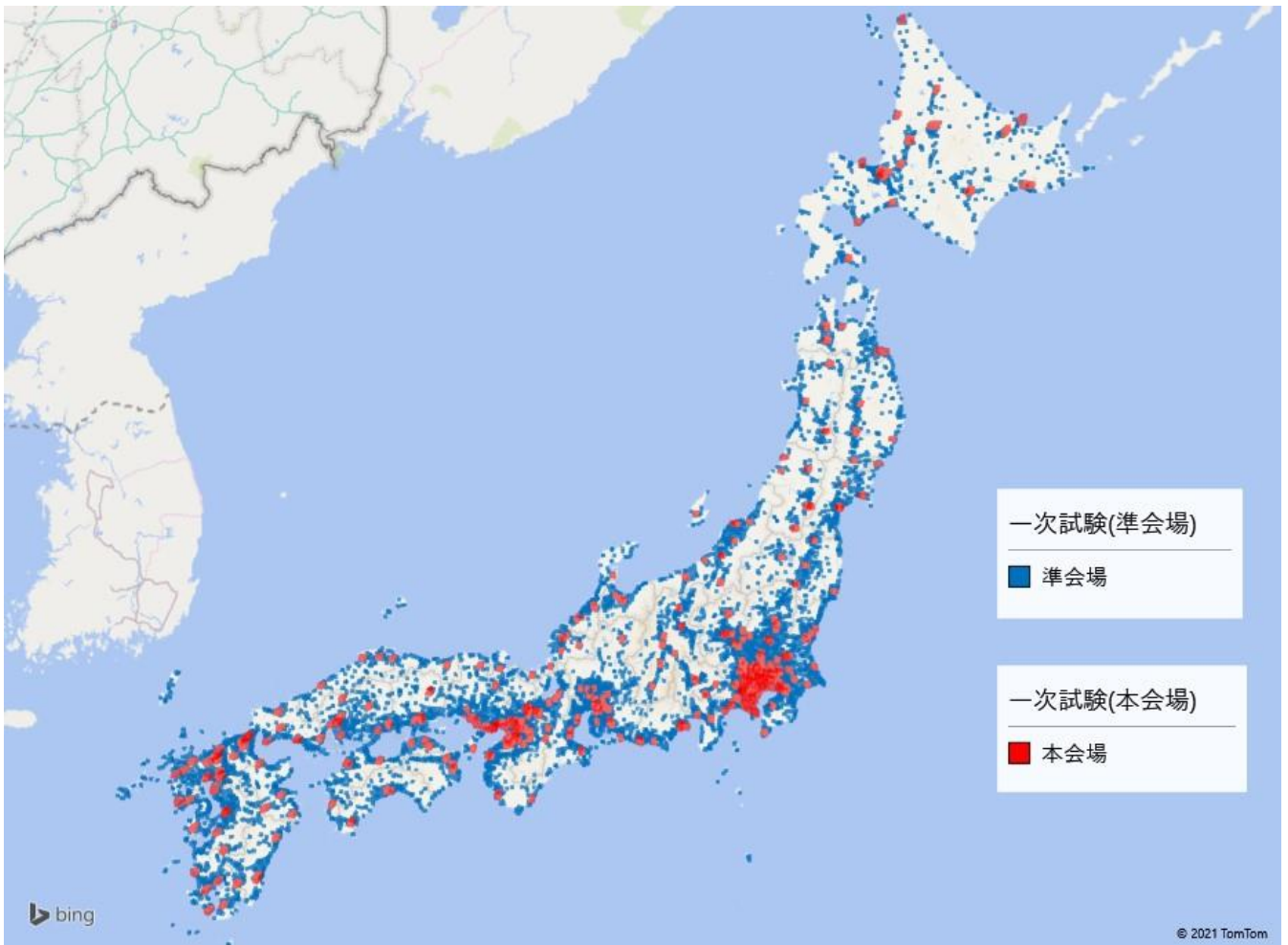
以上、関係各位におかれましては、コロナ禍の影響が来年度も一定期間、及ぶ可能性がありますなかで、英検協会としましては費用の低減・適正化の取り組みに努めた上で冒頭の検定料とさせていただきますこと、また、それに伴う諸対策につきまして、どうかご理解いただきますよう、謹んでお願い申し上げます。

最後に、中段でお伝えしました通り、諸事情により、この時期での発表となりましたことにつきましても、どうかご理解いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

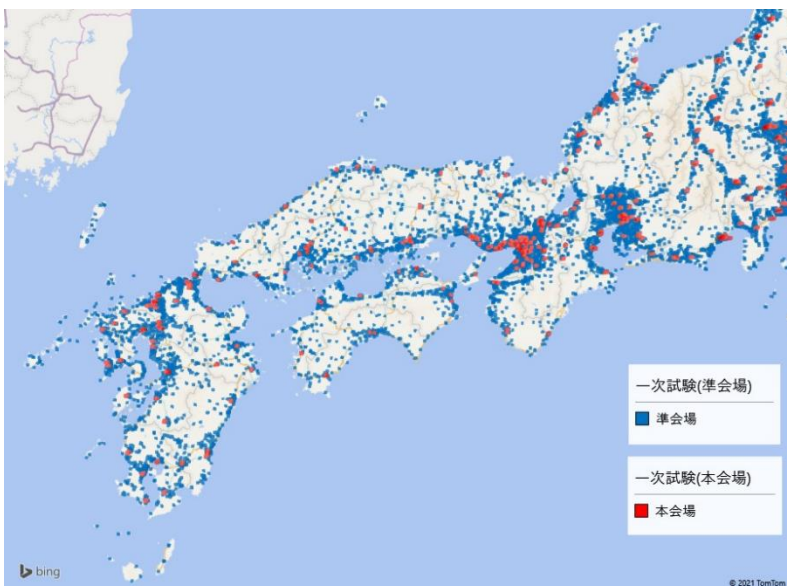
別紙

「英検（従来型）」の試験会場（準会場・本会場）分布図（2020 年度実績）

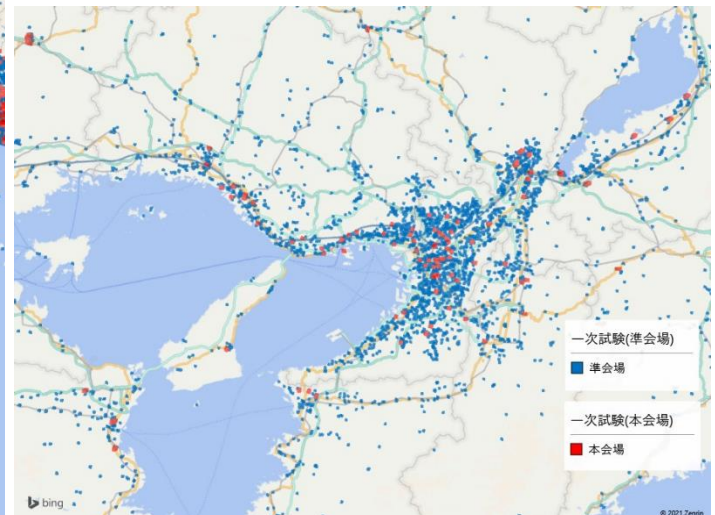
準会場：全国津々浦々に約 2 万団体（申込実績団体） 本会場：県庁所在地中心に約 400 会場



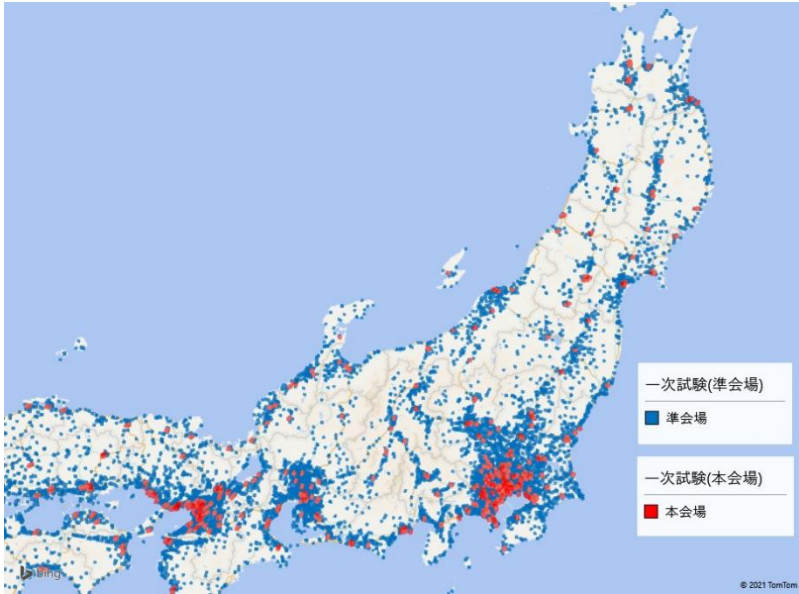
<西日本>



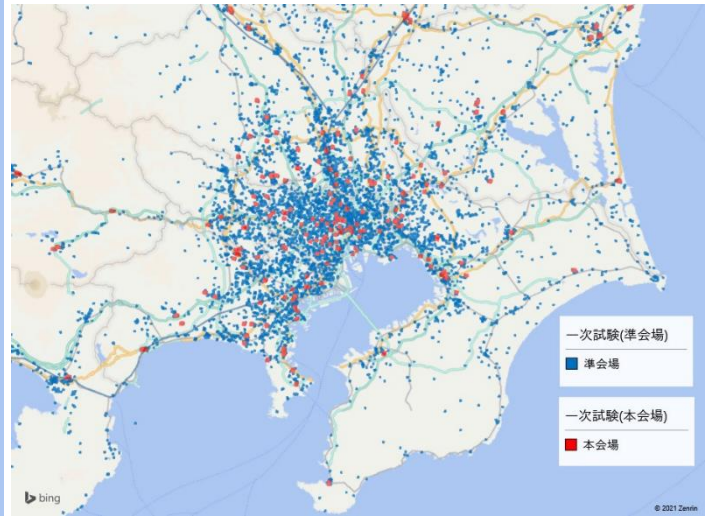
(関西エリア)



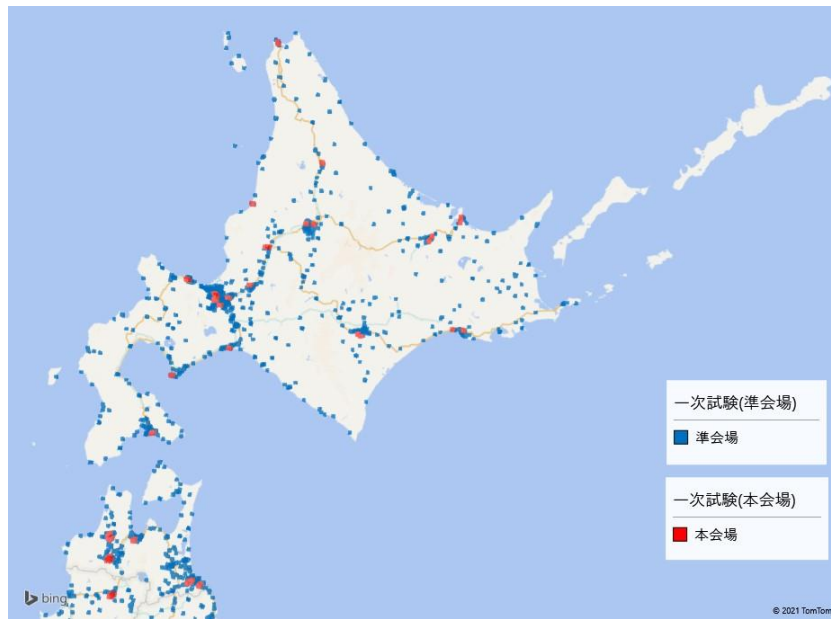
<東日本>



(首都圏エリア)



<北海道>



(画像元 : bing)